

令和3年度京都大学公共政策大学院

入学試験問題（一般選抜）

科目名：政治史・政治思想

この表紙の次には、以下の出題分野の試験問題が1ページに各2問ずつ、計3ページで6問ある。

1. 政治思想史
2. 政治史
3. 日本政治外交史

6問から2問を選んで解答すること。

1問につき、答案用紙1冊を用いて解答すること。

答案用紙ごとに、所定の欄に科目名、出題分野名、問題番号を記入すること。

科目名 政治史・政治思想 出題分野名 政治思想史

- 問題1 古代から近代にいたる西洋政治思想史の歩みのなかで、政治における「党派」の存在はどのように評価されてきたか、説明しなさい。また、それは、政党政治が定着した現代の政治を考察するうえでどのような意義をもつと考えられるか、貴君の見解を述べなさい。
- 問題2 政治において「権力」と「暴力」はどのように区別されるか、また、そのように両者を区別する理由とは何か、論述しなさい。貴君の見解を交えて構わないが、複数の思想家・理論家を取りあげ、できるだけ多角的に考察すること。

科目名 政治史・政治思想 出題分野名 政治史

問題 1 第一次世界大戦の戦後処理に伴う諸決定について、戦間期のヨーロッパ外交の展開に即して論じなさい。

問題 2 20 世紀前半のヨーロッパにおける権威主義体制について、具体的な事例を複数あげて、比較して論じなさい。

科目名 政治史・政治思想 出題分野名 日本政治外交史

- 問題 1** 原敬内閣が行った政策とその意義について、第一次世界大戦後という時代状況と内政・外交の連関を踏まえながら、歴史的事実に基づいて説明しなさい。
- 問題 2** 戦後日本政府の北方領土問題に対する立場の変遷について、歴史的事実に基づいて説明しなさい。